

## 73.2 生活上の行為の事例と能力記述

ここではカリキュラム案で取り扱っている生活上の行為の事例と、それに対する能力記述のリストを掲載しています。なお、ここで取り上げている能力記述はカリキュラム案で取り上げたものよりも詳細なものになっています。

「能力記述<sup>1</sup>」とは、できるようになることが期待される具体的な行動達成目標のことであり、それぞれの「生活上の行為」に複数の能力記述を記載しています。

学習者にとっては、能力記述の一覧により、自分ができること・できないことを具体的に把握することができ、自分の日本語学習の状況を確認し、具体的に目標を立てる目安として活用することができます。

また、指導者にとっては、「日本語で何ができれば生活上の行為ができるようになるのか」について知ることができ、具体的に教室活動の組立について考えることが可能になります。

ここでは、「生活上の行為を行う上で必要な知識や情報に関する理解」や、うまく日本語を使って生活上の行為を行うことができない場合に行うコミュニケーションの工夫も能力記述のリストに入れてあります。いずれも実際に日本で生活を行う上では欠かすことができないものです。

これら能力記述のリストを基に、学習者と指導者が能力記述を参考に共に学習の記録を付けることが行動・体験中心の評価につながります。また、共通のツールを基に指導者・学習者が共に学習の軌跡を振り返り、今後のプランについてコミュニケーションを行うことが、学習者のニーズや状況・地域の状況に合った日本語教育を各地で作り出していく上で大切です。

### 能力記述のリストの活用

#### ①学習者にとって

- ・自分ができること・できないことを具体的に確認することができる。
- ・自分の現在の状況に合わせて具体的な目標を立てることができる。

#### ②指導者にとって

- ・日本語で何ができれば生活上の行為ができるようになるのか確認できる。
- ・教室活動の組立について考えることができる。

#### ③学習者・指導者にとって

- ・能力記述を活用した記録・評価を参考に、学習の軌跡を振り返ったり、今後のプランについて検討したりすることができる。

⋮

<sup>1</sup> 「能力記述」という用語は「キャンドゥーステートメント(Can-do-statements)」の訳として用いています。